

比例代表選挙の投票は 社民党

衆議院議員選挙
12月4日公示 12月16日投票



社民党は、中国ブロック比例代表予定候補として金子哲夫をたてて戦います。衆議院選挙の投票は、小選挙区と比例代表の2回行います。比例代表の投票は**政党名で投票**します(個人名を記入すると無効になります)。

中国ブロック一議席回復へ 生活再建

いのちを大切にする政治を
国民の期待を背負って政権交代を果たした民主党政権は、社民党が政権離脱の要因となった「普天間基地問題」以降あらゆる局面で国民の期待を裏切ってきました。いまや民自公3党の談合政治へと変節した野田民主党政権には、国民の声は届かない。
また、国民の政治不信を背景に憲法改悪の動きも急速に強くなっている。戦後民主主義の危機となっている。「憲法

私たちは、市民・県民の声をしっかりと受け止め、脱原発消費増税反対、TPP反対オスプレイ配備を止めさせ、憲法改悪を阻止し「いのちを大切に

破棄」や「戦後民主主義からの脱却」をいう政権を許してはならない。格差と排除を容認する社会、原発復活の社会を子どもたちに引き継ぐことはできない。

選対委員会(23日)報告

県連合は、これまでに労組支援要請回りや労組選対(準備会)、政策ビラ50,000枚配布など、選挙態勢を進めてきました。23日の会議をうけて全力を上げます。

- 選挙での具体的な目標
中国ブロック1議席を回復
得票目標 岡山44,000票
公示日までの取り組み
ポスター完全貼
「新報」号外の完全配布
労組・支援団体と連携強化
公示後の取り組み
選挙戦本番では7日・8日の2日間、選挙カーが岡山を回ります(コース別途案内)

社民党演説会
12月8日(土) 14:00~
岡山勤労者福祉センター
*手を貸してください。まだの方は重ねてカンパのお願いです

金子哲夫と語る政治学習会 「憲法を考える」で講演

総選挙に向けて、改憲の動きが、かつてなく強まるなか岡山市内で11月10日、憲法を考える「金子哲夫と語る政治学習会」に50名余が参加し、事前の呼びかけで労組の仲間も多くみられた。

改憲へのねらい 手続き簡素化が焦点

金子氏は「自民総裁選で5人全員が改憲をいうなど、かつてなかったこと。改憲の道筋として、96条の3分の2条項の改正手続きが焦点になる。特に、現行憲法には大震災の混乱に対処できる規定がない。緊急事態法をつくる



だけでなく、絶えず脅かされる日常的な問題を憲法に照らして考えることが大切」と、身近な権利の主張が大切なことが強調された。

き、国民の自由の制限などで現行憲法と対立するので、改憲が必要という主張が強い」と、改憲への道筋を簡素化し、あとは次々と思いつく通り変えていくやり方を指摘した。
また、「そもそも国家権力から個人の権利の保障を認めさせたのが憲法で、条文改正

参加者から「学校の校務員をしていて、作業中に中学生から呼び捨てや罵声をあびせられ悔しい思いをしている。学校側は卒業まで放って、子どもと向き合っていない。基本的な人権に立ち返って、どう考えたらいいのか」と、日常的なかでの悩みの報告があった。

お知らせ
今月の「新報」読者会は中止
弓之町「時事問題懇話会」は衆議院選のため別途連絡(今年の総括予定)します。

小紙へも読者から指摘
憲法にも間違いがあるそんなこの紙面の小文にも読者から誤りの指摘をいただいた。
10月1日号の下段コラム欄「話題にはいとまがない」を正しくは「話題にはことかかない」に訂正します。どんなことでも読者の反応は大歓迎。ひきつづきご意見、ご感想をお寄せください。

憲
法前文など英語の直訳だから、助詞の間違いが3つも4つもある。そんな「押し付け憲法は廃棄だ」と、戦後民主主義の政治・社会体制を戦前に引き戻そうという▼平和主義・国民主権・基本的人権の尊重をうたう現行憲法も、おまかせ民主主義のなか、大企業の利益と競争の政治が優先され最低限の生きる権利さえ脅かされている▼「何かやってくれそう」とか「いさましい言葉」の新社が雨後の竹の子のようにマスコミをにぎわしているが、歴史を繰り返す危険を感じる人は多い▼今度の総選挙は、子どもたちにどのような社会を選択するのかの岐路となる選挙だ。そのとき「耳障りのよい言葉」にまかせるのではなく、1票の重さ行使しなければならぬ。(の)